

大清水小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・「地域に愛着をもち、自ら活動できる大清水っ子」をテーマに、総合的な学習や教科などで ESD 活動を進めている。
- ・ ESD 活動を「他者とかかわり協力・協同して実践する」「地域社会に主体的に参加する」「多面的に物事を考え自ら実践する」態度や能力を育てる場ととらえ、地域のさまざまなキャリアをもつ方々との交流を行っている。

<活動の実際>

① 地域・防災にかかわる活動（3年）

大清水小の校章につかわれている、しょうぶの花。「どうして大清水はしょうぶとつながりをもっているのかな。」という疑問がわいた。自治会長さんに話を聞いたり、校区記念誌を読んだりして調べる中で、昔、大清水には大きな湧き水があってノハナショウブが群生していたこと、つらい開拓の時代を過ごした人々が花を見て癒されたことなどを知った。防災では、地域の消防団の取り組みについて、話を聞いたり、放水体験や消火器の体験をしたりすることで、校区のために働いてくださっている方々の気持ちを考えた。このような活動を通して、子どもたちに校区に親しむ心を育むことができたと思う。

希望コース別探究学習（4～6年）

② 防災にかかわる活動

【防災チーム】では、南海トラフ地震が発生したらどのような被害が出るのかを調べ、大清水の人が生き残る可能性を高めていくためにできることを考えていった。南海トラフ地震にそなえた避難訓練の企画、自分たちが住む町の危険や安全をまとめたハザードマップの作成、避難時に必要な防災グッズの考案、避難所で必要な物品や必要数を考えたことで、地震から生き残るために自分にできることを実行していこうという思いを高めることができた。



③ 食育にかかわる活動

【食育チーム】は、食品ロスが世界中で問題になっているという実態から、具体的にどんな場面で食品ロスが起こるのかを調べ、家庭だけで起きるものではないということをつきとめた。実際にスーパーへ行き、どのような食品ロス対策を行っているのかを学んだ。さらに、自分たちに出来ることは何なのかを考え、廃棄食材を使って調理した。そのような実践から、生活を見つめなおし、食材の大切さや無駄にしないようにしようという意識を育むことができた。

④ 福祉にかかわる活動

【地域学習チーム】では、自治会が高齢者を支援する活動をしていることを知り、高齢者を高齢者が支援している実態を知った。そこで、自分たちにできることはなんだろうと考え、地域の高齢者のために行われている取り組みに参加し、その活動を発信することを決めた。認知症の方のことを学ぶために地域の老人ホームで実際に接する体験をして学び、認知症の方の捜索訓練に参加した。実際に地域の活動に参加することで、地域に守られるだけでなく、みんなでよりよい地域にしていこうとすることの大切さを学んだ。

⑤ 国際理解にかかわる活動

【国際理解チーム】は、「貧しい国は幸せではないのか？」という疑問から、「それぞれの国の幸福度は何%か？」という共通の視点を持ち、日本と比較しながら自分の知りたいことを探究したり友達と意見を交流したりしながら学びを深めてきた。また『アジア・フレンドシップ事業』として、中国、韓国、フィリピンの3か国から講師の先生を招き、各国の実際の様子や言語にふれる機会をもった。異文化を感じる事ができ、国や民族を超えた生き方や人権について理解を深めることができた。

⑥ 環境にかかわる活動

【環境学習チーム】は気候変動や生物多様性の保全といった世界的な問題から、自分たちの身の回りの環境に着目した。その中で、A 外来種チーム B 530 チームに分かれ、学習を進めていった。外来種チームでは、タニシに注目し、地域の農家さんに話を聞いたり、用水路を調査したりすることで、タニシの影響を多角的に捉えた。530 チームは地域や校内でのごみ拾いをし、その実態から校内での啓発活動に取り組んだ。これらの追究を通して、一人一人の環境意識を高めていくことの大切さを学んだ。